

レッドラディエンス Red Radiance

牡 黒鹿毛 2019.4.20生
北海道白老町 社台牧場生産
馬主・株東京ホースレーシング 栗東・友道康夫厩舎
馬名意味・冠名+光輝、きらめき

ベルフォルマーダARG系 F1-m

ディーブインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo Wishing Well
	ウインドインハーヘアIRE 鹿毛 1991	Alzao Burghclere
ベルフォルマーダARG Performada 鹿毛 2011	Jump Start 黒鹿毛 1999	A.P.Indy Steady Cat
	Perversa 芦毛 1996	Fitzcarraldo
		Peanut

5代までのインブリードなし

INTERVIEW

吉田香代子代表(社台牧場)

当歳時に「重賞を勝てる馬」と言われました

ダービーレグノの2003年新潟記念以来の重賞勝利となり、とても嬉しく思っております。勝った瞬間、当歳時のこの馬に対して馬主関係者が「重賞を勝てる馬」とおっしゃっていたことを思い出しました。父馬に似て小柄でしたが特に背中の流れがよく、育成牧場へ移動してからも高い評価を聞いておりました。怪我をしないで、無事にいってくださることを願っております。



Photostud

2歳時の秋、2勝目を挙げたベゴニア賞の後に骨折が判明した本馬は、翌年7月に福島で復帰(猪苗代特別2着)した後にも骨折のため、再度の長期休養を余儀なくされた。それでも昨年4月に復帰してからは一度も連対を外さずに実績を積み上げ、今年2月にオープン入り。メトロポリタンSの2着を挟み、初挑戦の重賞でしっかりと結果を出した。2度のアクシデントを乗り越え、素質を開花させてきたディーブインパクト産駒が、5歳の夏を迎えていよいよ本格化した印象だ。

父ディーブインパクト

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央、仏14戦12勝(ジャパンC^{G1}、日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1})、年度代表馬2回、07年から供用、19年死亡。12~22年日本リーディングサイヤー、10~14、16~21年日本2歳リーディングサイヤー
〔代表産駒〕コントレイル、ジェンティルドンナ、グランアレグリア、シャフリヤール、ロジャーバローズ、ウグネリアン、マカヒキ、キズナ、ディーブイランテ、サトノダイヤモンド、ミッキークイーン、ディーマジェスティ、アルアイン、フィエールマン、ワールドプレミア、アスクビクターモア、ラヴズオンリーユー、シンハライト、ハーブスター、マルゼリーナ、アユサン(以上国内クラシック勝ち馬)

母ベルフォルマーダARG

重13戦2勝(亜オークス^{G1}3着、フランシスコJベアスレイ賞^{G2}3着)、16年輸入、20年死亡

メルツフリーデン(18 牡父スビルバーク)中央3戦0勝、地方10戦0勝

レッドラディエンス 本馬(19 牡父ディーブインパクト)中央12戦5勝(七夕賞^{Gm}、コパノリッキーC、鴨川特別、ベゴニア賞、メトロポリタンS・L2着)獲得総賞金134,153,000円

ラヴィータ(20 牝父キズナ)中央1戦0勝

祖母ベルベルサ Perversa

アルゼンチン産 重5勝(オルビット賞・重L、カルロスPロドリゲス賞^{G2}2着)イージーリスウエイド Easily Swayed(04 牝父More Than Ready)北米3勝、ドラフター Drafter(イグナシオウルティラデラソッタ&リオ賞・智^{G3}2着)、ナチュラルブルーズ Natural Blues(エドゥアルドカセイ賞・重^{G2}3着)の母

パフューメリー Perfumery(05 牝父Hussonet)重1勝、ポルトベル Portvell(ラド賞・ベル-L3着)の母

ベルベルサド Perversado(08 牡父Thunder Gulch)重2勝(エンサヨ賞^{G2})

ベルフォルマーダARG(11 前出)

ベルベルソドバイ Perverso Dubai(16 牡父E Dubai)重3勝(エストレラスクラシック大賞^{G1}3着、アルゼンチン金杯^{G1}3着)

曾祖母ビーナット Peanut

アルゼンチン産 重11勝(サンティアゴローリー賞^{G2}、アレナレス將軍賞^{G3}、ゲマス將軍賞^{G3}、エスパルニャ賞^{G3}、ブエノスアイレス市大賞^{G1}3着)、アラート Alert(エストレラスジュニアスプリント大賞・重^{G1})の祖母

2度の骨折を乗り越えて重賞初制覇

60回目の節目を迎えた今年の七夕賞は、7月7日に行われた。創設以来6回目、5年ぶりに施行日と七夕の当日が重なったレースは、前走の新潟大賞典でハナ差の2着に惜敗したキングズパレスを筆頭に、初の重賞制覇に挑む面々が実績上位馬を従えて中心勢力を形成。結果的にも、2番人気に支持された2頭が上位を占め、穏当な決着となったが、勝利を飾ったのは2番人気のレッドラディエンスだった。

逃げの戦法で重賞を2勝している古豪バビットが、一番のダッシュで飛び出して先手を主張。大外枠を引いた同型のセイウンブラチナがこれに絡み、前半1000mの通過が57秒3という豪バビットが、一番のダッシュで飛び出して先手を主張。大外枠を引いた同型のセイウンブラチナがこれに絡み、前半1000mの通過が57秒3という

位勢を外から一気に捉え、背後から追い込んだキングズパレスの反撃もまったく寄せ付けずに完勝のゴールへ飛び込んだ。

2歳時の秋、2勝目を挙げたベゴニア賞の後に骨折が判明した本馬は、翌年7月に福島で復帰(猪苗代特別2着)した後にも骨折のため、再度の長期休養を余儀なくされた。それでも昨年4月に復帰してからは一度も連対を外さずに実績を積み上げ、今年2月にオープン入り。メトロポリタンSの2着を挟み、初挑戦の重賞でしっかりと結果を出した。2度のアクシデントを乗り越え、素質を開花させてきたディーブインパクト産駒が、5歳の夏を迎えていよいよ本格化した印象だ。